

備前市事務事業評価表

事務事業名	学校図書館運営事業		コード	担当課	学校教育課
			03-01-02-12	担当者	三村実
事業実施期間			電話	64-1840	
総合計画 事業（政策）体系	大項目	地域文化と人が輝くまちづくり			
	中項目	未来を支える人材を育むまちづくり			
	小項目	小・中学校			
	施策	読書活動の推進			

事業について	
目的	各学校の図書室の管理・運営と児童生徒の読書活動を推進する。
対象 (誰のために)	市内各小・中学校の児童・生徒
内容	市内各小・中学校に学校図書館司書を配置し、各学校の図書室の管理・運営を行い、児童生徒の読書活動が推進できるように司書教諭等と連携して、教育活動に取り組む。

事業の結果				
実施項目	17年度			
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)	
小中学校図書館司書雇用時数	8,400 時			
学校図書館司書雇用人数	7 人			
学校図書館司書配置校	19 校			

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	11,462	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	1,380	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	12,842	市債	12,842	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.15	人		
結果指標名	小中学校図書館司書雇用時数			
結果指標量	8,400			
単位	時間			
対前年比	—			
事業費	12,842,000	円	0.00%	
単位当たりコスト①	1,529	円		
結果指標名	学校図書館司書雇用人数			
結果指標量	7			
単位	人			
対前年比	—			
事業費	12,842,000	円	0.00%	
単位当たりコスト②	1,834,571	円		

事業の成果			
成果指標名	図書館司書の配置率 (%)	式又は説明	図書館司書雇用人数 / 配置校数 × 100
成果指標量	17年度		
	37		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	50	到達目標年度	平成21年度

事務事業の評価		(平成17年度事業)
目的・対象・内容の 妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
効率性の 評価	コストの効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映されやすい
有効性の 評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている

総合評価	
コメント	学校の読書活動を充実し、強気に推進していくためには、学校図書館司書の増員が必要である。また、能力のある司書を確保するために、勤務条件を改善していく必要がある。
評価区分	<A~E> B

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	10000時間	結果指標量②	7人
目標値	結果指標量	37	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	学校図書館司書を非常勤勤務から臨時常勤化し、活動時間を確保する。	平成18年度	他の職員のと意思の疎通が図られ、活動時間も確保でき、活動内容が深まる。
妥当性	学校図書館司書を常勤勤務にする。	平成18年度	常勤化することで職場の一員としての自覚が深まり、協働して教育に取り組みやすくなる。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。